

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2012回★★ 万座山と岩菅山	10/3(月)～10/6(木) 担当者自宅出発 PM 7:00	吉田 武 (654)	京都～岡谷 IC～R142～ 長野原～万座山～本白根山 岩菅山～須坂 IC～京都
テント泊りの用意, 防寒具, 日帰り登山装備 参加費 20,000円 その他について担当者まで連絡を			
第2013回★★ 南木曾岳, 兀岳 擦古木岳 (I△)	10/8(土)～9(日) 10/8 AM 6:00 京都駅 八条口バスプール	岡田茂久 (670)	東 IC - 中津川 IC - 南木 曾岳 - 擦古木自然休憩舎 (幕営) - 擦古木岳 - 兀岳
申込締切10月5日(先着6名まで), 装備: 1泊山行装備(シュラフ, 食器, 防寒具等) 昼行動食2食準備のこと(夜1, 朝1は共同購入), 地図: 南木曾岳, 兀岳(1/2.5万) 少し山々の紅葉には早いと思いますが, 初秋の静かな山行きが楽しめることでしょう。			
第2014回★ 大船山 653.1m	11/3(祝) AM 7:30 壬生交通局	和田良一 (692)	京都 - 亀岡 - (R372) - 福住 - 曾地口 - 十倉
場合により大野山(帰途)。マイカー登山につき希望者は担当者まで申込んでください。			
今月の集会		企画運営委員会	
日時	10月11日(火) PM 6:30	日時	10月20日(木) PM 6:30
場所	厚生会館 4F 大教室	場所	厚生会館 4F 大教室

自然保護とエゴ

岡田茂久

予定していた用事が午前中の早くに片付けることができたため、以前から気になっていた井ノ口山の様子を訪ねるべく出かけてみた。京都府が進めている丹波広域基幹林道建設により、ルートに当る尾根筋で貴重な植生が破壊される恐れがあるということで、林道工事の現状を見ておきたかったのである。

丹波広域基幹林道は京都府が林業振興のため、京都市の花背原地から船井郡丹波町までの約66kmを建設するもので、すでに全体で28%の進捗率といい、99年の完成予定という。計画ルートは原地から井ノ口山～衣掛坂～ソトバ峠～コシキ峠。鴨瀬谷山を経て八丁林道と接続し、更に掛橋谷山～深見峠、旧原峠の新神楽坂～旧神楽坂～海老坂を経る尾根筋をたどるものと聞いている。ルート途中には屋久杉に匹敵するほどの、樹齢千年を越える天然伏状台杉があり、衣掛坂までの支尾根には、日本最大級の巨大なヒメコマツやホンシャクナゲの群落等があるという。その他、絶滅が心配されている貴重な蝶類等の主要な生息地ともなっているらしい。

丁字谷入口に駐車し、谷沿いの荒れた林道を歩き出そうとして呼び止められた。「井ノ口山周辺は自分の土地であり、山に入ってもらっては断る」というのである。全国のどの山においても持ち主があり、ほとんどの場合、登山者は他人の土地に無許可で入り込んでおり、厳密に言えば登山者のほぼ100%は他人の土地に不法侵入していることは確かである。しかし、登山者は慣習的に山を歩くのが自由と考えており、許されるものと認識している。いや、そんなことは何も考えていないのが本当の所であろう。それでも他の地域で国有林等に入る場合は、許可が必要とする経験は何度かあるが、松茸のシーズン以外に、山を歩き出してから30年以上にもなるのが、北山ではこんな経験は初めてであった。

要するに、最近、林道建設の話が出てからは自然保護の為と称し、多くの人が入山している。ひどいときには百人程の団体もある。おかげで山の斜面は崩れ、植生は踏み荒らされている。なにが自然保護だというわけである。林道建設にしても生活がかかっている。自然保護だけでは生きていけない。しかし、貴重な植生があることは知っており、それらを避けてのルート変更は可能なかぎり検討したが、それには建設費の膨張が避けられない。建設費は全て公共事業費では無く地元負担があり自ずから限度がある。自然保護団体は林道建設を反対すると行政に働きかけるだけで、我々とは話し合おうとはしない。実際に自然保護をどうしたらよいかを、お互いに話し合いたいのである。それに、登山者が入ることで一番の心配は山火事である。自分の山で山火事を出した場合は、消火の為に村の者たちには多大の迷惑を掛け、一生、頭が上がりなくなる。山岳連盟の人たちも口だけである。多分に八つ当りの発言であったが、なるほどと思うところも多々あった。約1時間ほど話し込んだがついに入山の同意は得られなかった。

30年程も昔にもこんなことがあった。女工哀史で知られる飛騨と、信州のさかいにあたる野麦峠を初めて訪ねたときのことである。乗鞍岳を正面に眺める阿多野郷で泊まったが、おりから道路工事中であり、「こんな素晴らしい所は車が入ってこないよう、開発は押さえて欲しいものです」との不用意な私の発言に、「冬に病人がでた時など、腰までの積雪の中、ソリに乗せて村が総出で町まで降ろしている。冬にも車が走れる道路が欲しいという我々の望みは、そんなに贅沢であるのか、それは、我々の生活を考えず、たまにこんな所にきて自然保護などと知ったらしいことを言う都会人のエゴである」と言われ、沈黙してしまったことがある。

最近の新聞の調査では、生活を押しさえても自然保護という結果が出ていたが、都会人のエゴとならないよう、我々登山者も自然保護と合わせ、地元の人たちの生活をも考えてみる必要があるようだ。登山をする場合でも、時には登山というお遊びで、自分たちの生活の場を荒らして欲しくない人たちがいるということも、意識に置いておく必要がある。

紀州の山紀行

津田 実

犬ヶ丈山Ⅲ	△992.0m	長者ヶ峰Ⅱ	△550.6m
真妻山Ⅰ	△523.4m	西山Ⅰ	△328.7m
生石ヶ峰Ⅰ	△870.0m		

8月23日 AM0時、紀州路へ向けて車を駆る。安珍・清姫で有名な道成寺も闇の中、日高川に沿って進む。尾曾集落の外れに、むかし懐かしい煉瓦造りの建物（発電所）を右下に見て右折、林道に入ると、これまた奇っ怪な名称を持つ「蠅螂峠」の標識を見て右折する。林道は少しで終わり、林の中に標石が蹲っており、十二支会の標識がそばの立木に吊ってあった。

直ちに反転、日高川に沿う小畑集落の外れで山仕事に行かれる村人に長者ヶ峰への登路を尋ねると「道はない、谷沿いに行け」とのこと。取り敢えず車の行けるところまでと悪路に入ったが、道を聞いた地点から少しで車は通行不能、左の広場に駐車して、歩きだす。

橋を渡ると、竹藪の中を通るが、それは明らかに家の跡と判る石垣があり、途中で振れた変わった竹だったので杖にする。

最初は歩き易い道も、登るに従って段々怪しくなり、所々不鮮明な踏跡を捜し乍らも忠実に谷を遡上して行ったが、等高線450m付近で遂に径は消滅。周囲は雑木の疎林で何とかかなりそうなので、谷から前方に見える尾根を目標に登りだしたが、思ったほどの困難もなく稜線に出る小径があった。これが地図上の破線かも知れない。下りのために目印を付けて、右の方向に進むと僅かで三角点に到着した。夜中の出発に長旅なので此処で昼食と休憩をする。

下山は登りのヤブを避けて小径を歩いたが、行くほどに径は尾根の反対方向に行くので「コアラカン」と。降下地点を捜したがなかなか見つからず、半ば強引に斜面を下ったが、そこは老骨の哀しさ、「長者変じて危なく亡者」に成りかかったが、何とか無事に谷を降りる。それは登りの小径で大分近道にはなったが、谷水で埃で汚れた顔や手を洗い緊張で渴いた喉を潤し、駐車地点に戻る。まだ時間があると次なる真妻（まずま）山へ向かう。

仏ノ串と云う変わった名前の峠を越し、山野集落の「何でも屋」。横井先輩の言によれば、「棺桶以外は何でもある」田舎の小型スーパーに立ち寄り飲物を仕入れ、ついでに真妻山への登路を教えて貰う。

山の斜面はミカン畑で仕事のための道か、完全舗装で走り易い。ミカン畑がなくなった途端に道は狭く地道で草が覆い、カーブもきつく走行困難。仕方なく車を捨てて歩きだすと、すぐに道は終わり、日高高校の「真妻山登山口」の標識が建っていた。

林道終点からは、所々茨と叢に覆われてはいたが確りした小径が山頂まであり、先程の山と違っ

て楽に三角点に再訪できた。天気快晴。気分上々。

此処は91年5月5日に登っているが（詳細は部報 NO464号P5～9をご覧ください）前回は南面の松原集落から急坂を辿ったが、今回は西面の山野集落からで、こちらの方が楽なようだ。1日に三つも三角点を稼げたので全員意気揚々と今夜の宿舎、川辺町サイクリングセンターに向かう。宿舎は小奇麗で瀟洒な建物で、登山の疲れを十分に癒せた。

翌24日は、先ず、太平洋に面する美浜町と隣の日高町の境界にある西山をめざす。川辺町から御坊町を抜け、小坂峠から上の道は山頂にパラボラアンテナがある関係か、また、美浜町の散策路あるためか、広い舗装路で走り易く、調子に乗って終点まで行き過ぎ、500メートルほどバックすると、左側に確かな踏跡が急斜面に付いている。確認のために登ってみると、小さな台地の中央に標石が、何を愚図々々しているかと地面から少し顔を出して迎えてくれた。直ちに全員を呼んで万歳。休憩もなしに次なる山、生石高原へ向かう。

吉備ICからの高速道路を海南ICで降り、今は廃線となった野上電鉄の赤錆びたレールに沿って山地へ、川口集落から札立峠へ、生石神社に詣り、生石峰の三角点を再訪。前回（94年4月4日）烈風に悩まされたが、今日は穏やかな好天のもと持参の焼肉で昼食の後、下山。神通温泉で登山の汗を流して、帰洛した。

94年8月22日～24日晴れ

【参加者】 大倉、森本、津田、津田F1、他2名

【第2009回例会】

平成6年度

無雪期遭難救助訓練

大倉 寛治郎

京都府山岳連盟、遭難対策委員会主催の救助訓練が9月6日（日）午前8時から左京区大原金毘羅山の岩場で行われた。山岳遭難の防止と安全登山のために、京都府山岳連盟傘下の「救助隊員、指導員」並びに各会員の、救助技術の向上を目的に62名が参加し上級、中級、の各班に分かれ技術向上を目指して汗をながした。

内容は、上級班はMK岩場で（50m下のテラスに負傷者が居る）、救助隊員2名が下降して、1名が背負ってV字型で、他の隊員10～12名が引き上げ、1名がユマーリングでフォローする。

ザイルの継ぎ目の通過（ユマールと滑車）を使用してスムーズに通過させる技術の習得を2班に分かれて行った。

中級班はゲタの岩場において内容は同じでザイル1本でユマール、滑車を使用して負傷者を上部へ引き上げる技術の習得を行った。

救助訓練終了後参加者の感想とまとめ。

1. 引き上げるときに左右に振られる。
2. 引き上げが止まると下に下がり不安があった。（ザイルの場合は少しある）
3. 救護者と介添え者の呼吸が合わなかった。
4. 継ぎめを通過するとき、ユマールで固定し滑車はずしかけ替えを行うが、慣れていないためスムーズに行かなかった。
5. V字形で引き上げる場合左右の引き上げ者の呼吸が合わないため片方に荷重が掛り過ぎた。
6. ユマールについては、強度の高いものを使用する。
7. 救助する時は必ずザイルは2本以上使用する。
8. 事故を起こせばこれだけの人数がいり大変だと分かった。
9. 事故を起さない為にも一人一人が自己研鑽に勤め、本日の訓練の内容を会に持ち帰り練習して救助技術を一層高めるよう努力して下さい。

京交山岳部より（上級）吉田、（中級）山岡、西尾、馬淵、方山、各氏が参加し遭対委員大倉は中級の指導に。

尚、11月26日（土）京都府中小企業会館に於て山岳遭難を無くする集いが夕刻よりあります。

平成7年2月10日～12日の間南八ヶ岳に於て積雪期の研修会があります。（ぜひとも参加し、赤岳鉱泉小屋で泊り冬山の楽しみを肌で感じて下さい）

平成7年2月26日（日）積雪期救助訓練が比良「堂満岳」北東面付近で行われます、指導員、救助隊員はもとより、実力のある方はぜひ参加してください。

【個人山行】

北海道の山旅

洛西 服部 正義

日本300名山、北海道に26座中、8座が残り、特にヒマラヤ山脈と成因が同じとされる日高山脈は北海道最大の山塊で、前衛が佐幌岳に始まり幌尻岳、カムイエクウチカウシ山、ペテガリ岳、神威岳、楽古岳、そして襟裳岬までの140キロの山脈、登山道がしっかりしているのは、ペテガリ岳、楽古岳位いで、他の山はカールに熊が生活しており、原始的な山歩きの山旅へ、

7月15日、AM9:15分大阪発、JASで帯広空港へ飛び立つ。

カムイエクウチカウシ山(カムエク)1等三角点(晴のちくもり)

日高山脈を左側に、襟裳岬東側から帯広空港に進入して、無事着陸。レンタカー(商用車)を9日間貸りて、中礼内村の食料店で2日間の食料・酒等々を買い求めて、礼内川に沿って七ノ沢ゲートに向って車を走らせる。

左手山側は、日高側と結ぶ計画で進められている日高縦貫道路、七ノ沢ゲート手前で縦貫道路を一部走らせてもらおうと、左カーブした所にゲートが有り、有難い事にゲートが上がっているの、七ノ沢出合まで車を進めると、12号砂防ダム手前、右側に縦貫道路現場事務所横に登山者用のPが設置、駐車して身仕度、登山用具を総点検して登山靴、テントで20数キロの荷物、奥駈用の鈴を鳴らしながら七ノ沢を渡り礼内川の冷たい冷たい川に運動靴で第一歩を入れる。(7月15日、13時52分)出発。

水位はそれ程多くはないが5分も歩いていると足の感覚が鈍くなり、徒渉の回数を少なくする為に、左右に注意して、目印の赤テープを見つけては、樹間の中の、踏跡を歩くと、滑らなくて時間短縮一石二鳥。

何回と上流に向って河原を遡行すると、左に大きくカーブした正面の木陰に二張のテントが設営され、先客あり、八ノ沢出合に着く。(15時18分着)

小生もテントを設営、河原で冷したビールを飲みながら夕食を済ませ、明日山頂めざしての準備、サブザックに必要な物を入れ、「おかず」が入っていた発泡スチロールを奥駈用鈴の下に垂らし、河原の枝木に掛けるとチリン、チリンと良く通る響きで、熊おどしを作り、周囲はまだ明るい、安心して眠る。

7月16日(晴のちくもり)、先客2人の話し声で深い眠りから起き、冷たい水で顔を洗い、2人に朝のあいさつに行き、テント内で朝食、サブザックを点検して先客の後をついて八ノ沢出合テント場を出発する。(AM4時56分)

樹間の中、踏跡を右にとり沢を渡ったりして八ノ沢カールを目指し、河原を登って行くと、左側に100米以上の滝、右側の沢も険しい沢、正面に二段の滝、標高1,000米三股に着き、3人休憩を取る。(AM6時16分)。(6時30分出発)

この附近から滝の連続で目印の赤いテープを追いながら、沢も一段と厳しくなり、巻道を忠実に拾って登って行くと、一面ガスの八ノ沢カール入口、3人で大声を出しながら、踏跡にそって左に少し歩くと、石を積み上げたケルンとテント設営場(三張)に登り着く。(AM8時43分)。(8時55分出発)

五感を働かせていると左側から水の流れが耳に入ってくるので、音のする方向に足を運ぶと、大きな岩の場所に出くわす。

この場所が、例の昭和45年、福岡大生がヒグマに襲われ、火葬された、平たい岩とレリーフを打ち込んだ岩、その下に20数年たった今も、靴ひもがないがしっかりした登山靴、手を合わせ合

掌する。

テント場に戻り、2人に出発をほどこすが、2人は立ち上がろうとしない。小生は運動靴をぬぎアイゼン(12本歯)を付け、下山時の事を考えて、雪渓上に落ちている枝木を何本もさしながら慰霊碑横の雪渓下の沢の音に注意しなかせら、ガスの中、熊に大声を発しながら、あまり左に振らない様に、沢の音もしなくなったので、山感で雪渓の急登を登り詰めるとハイマツが見えだし、ガスも切れ、太陽が照りつけ、ハイマツにオレンジ色の布切れを巻き付けたハイマツの分岐点、ピラミット峰との鞍部(1,700米)に飛び出る。(AM9時39分)、(9時50分出発)

これで、蝦夷梅雨開か、周囲の峰々、ピラミダールな山頂をながめながら、雲海下のお2人に声を掛けると、2人がうれしそうな顔で上がって来て、握手を求められ、3人でがっちり握手、カールで登頂もあきらめたという。

言葉使いで関西とわかり、京都からと言うと、一等の坂井さん知っていますかといわれ、小生の職場のOBと告げると、町田市の一△等会員の、秋元さんと友人で、さすが坂井久光氏も全国区の岳人と痛感する。

この分岐点から山頂までは、良く踏れており、細い稜線に注意しながらトンネル状のハイマツをぬけて少し左に振り、青空に突き上げている山頂をめがけて、2人の後に次いでついに一等三角点会員、いや岳人なら誰れもが登りたいと憧れる、カムエク山頂に、午前11時01分に登頂する。やった!!。

長年、憧がれていたカムエク山頂へ立って、1人で三唱万歳、他の2人は抱き合っている、再度3人で握手、食事をしながら峰々の指呼、やはり気になるのは、日本百名山、幌尻岳、後日登るベテガリ岳、神威岳、中ノ岳、一八九峰等を拝み、45分の休憩があつという間に過ぎる。(山頂出発AM11時48分)

札内岳I三角点の傷の無い石を何度々も触れて、おもいきって山頂を後にして、1,700米分岐点迄戻ると、地元、帯広山の会の案内で14名のパーティ。リーダーに、ガスの中、このルートよくわかりましたねと、誉められる。

誉められて、有頂天になっている場合ではない。この危険なカール、八ノ沢出合テント場迄の長丁場、細心の注意を払いながら3人無事に出合に戻り、河原に冷しておいたビールでやっと乾杯。(危険なので山頂へビール持たず)うまい!!(八ノ沢出合、テント設営地点16時56分着)、(出発17時25分)

3人とも、満足感でルンルン気分、テントを撤収して、河原を遡行、無事七ノ沢駐車場へ戻り、2人の東京組とお別れする。(18時53分着)

念願のカムエク登頂で、気が緩んでいるので、気合を入れ、運転にも注意を払いながら、次の山、一等三角点本点楽古岳(面射岳)に向い、大樹町、広尾町新生から楽古川に沿った道に入っていく、中楽古から札楽古川にR.236から12キロ地点にゲートがあるが、開いているので、枝道終点で、鈴で熊おどしを鳴らし、車中で眠る。

7月17日(晴)、沢を渡り、急登、一ヶ所ヤセ尾根があり、上り2時間05分、下り1時間37分、山頂からは太平洋、日高山脈が海に向かって高度を下げている様子が一段と良くわかる。

R. 336で黄金道路、襟裳岬を見物、次は花の名山、一等三角点補点、アポイ岳（冬島）の様似町に車を走らせ、久し振りにゆっくりと高山植物を見物しながら登山、農業担い手センターで食事を済ませ、老人福祉センターで入浴、洗濯物を洗い、明日からの神威岳、ペテガリ岳登山に備えて休養、車中で眠る。

7月18日（晴）、早朝、冬島山麓自然公園を出発、途中浦河町では、本州で戦っていた競争馬が牧場で休養中、R. 235の萩伏大橋を渡り右折、一路神威山荘に向い、運動靴で第一二股、第二、第三二股から0.5キロに河原の崖からテープが巻いてある樹中に登って行くと、山頂迄急登々の連続、滑るので手も使い下山時、ベテラン登山家も見落としやすい分岐、中ノ岳、ペテガリ岳方面に入らぬ様に、自分の目印を付け、一気に神威岳（二等三角点）に登る。

全行程、廻行が80パーセントで、頂上迄運動靴で往復、（上り3時間06分）、（下り2時間50分）、360度の大展望、カムエク山ペテガリ岳、ソエマツ岳、ピリカヌプリ岳、楽古岳も見え、大満足。

静内町営、静内温泉で入浴、レストランで食事を済ませ、次の山、ペテガリ岳に向って、工事作業が終った砂利林道をペテガリ山荘に向って砂ホコリの中、約2時間、車トラブルのない様にゆっくり走行して、山荘前に着く。

7月19日（晴）、駐車場に色々な車が8台駐車。ペテガリ岳の登山道がしっかりしているので、十二分に睡眠を取る為目覚セット無し、朝食を済ませ、AM 6時31分山荘前出発。車所有者の登山者、唯1人いない。

P. 1,293メートルに登ると、左側にあのカムエクが、右側に神威岳、中ノ岳が、左側正面にペテガリ岳、ルベツネ山が迎えてくれる。（この地点で12名の人達を追い越す。）

C沢コルまで、4回のアップダウン、最後コルから二つの肩を越え、高山植物ヒダカ・ゲンゲが青空の中、二等三角点と、ともに迎えてくれる。（山頂着、AM 10時11分）、（山頂発11時00分）、ペテガリ山荘登山口着（14時06分）

山頂は狭いが、大展望、カムエク、神威岳と違った山容、登山歩きに、大満足。

もう一度、静内温泉に戻り、疲れを癒して、食事を済ませ、涼しい駐車場で約5時間睡眠を取り、次なる山へ移動する。

R. 235で門別町、苫小牧東インターから道央ロードで小樽迄走り、深夜石原裕次郎館を下見、小樽運河を見物して、7月20日（晴）R. 393で常盤から余市岳（一等三角点補点）に登り、本日もう一山、ニセコアンヌプリ（一等三角点補点）へ足を伸して、下山後五色温泉に入浴して、長沼、大沼湿原を見物、岩内町へ出て、又、雷電温泉に入浴、前半の山旅は酸性食品（十勝牛、タマゴ、チーズ、野菜）が多かったので、後半の山旅は、アルカリ性食品（海の幸、海藻、野菜、チーズ）に切替えて、R. 220沿いの食堂で用を済ませ、涼しい場所で車中泊りする。

深夜空いているR. 229を走り、7月21日（晴）狩場山（一等三角点本点）を往復、道内一という賀老の滝を見物、又、R. 229に出て途中奇岩等を見物、写真を撮り、夕陽の沈む日本海のなんとも言えない風景、檜山国道を南下、江差町に入り、江差会館ニシン御殿を見学、石崎から松前にぬけるドゲ沢林道に入り、大千軒岳（一等三角点本点）松前（新道コース）登山口で熊おどし

の鈴を鳴らし、車中泊する。

7月22日(晴)、狩場山同様に、日本海も見える奥深い山で上り42分、下り23分、山頂附近高山植物が咲いている中に三角点が座っている。

松前城、青函トンネル記念館に立寄り、知内、姫の湯に入浴、函館市内で夕食を済ませ、東洋一(100万ドル)の夜景を遊覧、涼しい山頂駐車場で車中泊りする。

函館山(334米)三等三角点

7月23日(晴)、今回の山旅で低山^{ていざん}ではあるが、江戸時代の伊能忠敬が蝦夷^{えぞ}に渡り、最初に函館山に登り、現在北海道の第一歩^{しる}を記した場所で、100%の観光客は、建物の壁^{かべ}に打ち込んである伊能忠敬のレリーフに無頓着。

弟子^{てし}を連れて、日本全国を自分の足で作成した当時の地図と現代の日本地図を合わせても誤差の少ない地図にあらためて敬服する。

R.5で大沼へ走らせ、大沼から寝島^{ねしま}駒ヶ岳を撮り、赤井川から6合目登山口迄走り、200名山、駒ヶ岳剣峰に登り、足を伸ばして砂原岳(一等三角点本点)を稼いで、R.5を走り支笏湖に出て、登りたかった恵庭岳、見たかった苔の洞門を見物して、支笏湖丸駒温泉で夕食、入浴を済ませ、駐車場の車中で眠る。

7月24日(晴)、新千歳空港でレンタカーを返納、JALの午後便で無事帰阪する。

【個人山行】

九州の馬見山(△977.8)と英彦山(△1,199.6)

大槻雅弘

殊のほか暑い夏。九州福岡へ行く用事が出来た。表向きは、用事が出来たと言っているが、やはり本音は山登りをせずにはおられない。

1日目はおとなしく、カミさんの言うがままに用事を済ませるのにつきあった。

2日目からは、こちらのペース。九州自動車道から大分自動車へと走り、一つめの目的地馬見山を目指した。

長く山登りをしているが、九州本土の山は今回初めてである。屋久島の宮ノ浦岳に登っているが、鹿児島県とはいえ、島である。今回計画したものは、午歳生まれと、一等三角点の山を兼ねて、以前から登りたく思ってた山であった。

本当に、暑い暑いといいながら、汗をプルプルかいて登ったが、山は涼しい風と木影を与えてくれた。九州自然歩道にもなっている広い尾根道は、歩きやすく三角点まで続いていた。人には誰も合わなかった。合わなかったというより、この暑い夏にモノズキ以外に山へ登るものはいな

いだろう。残念ながら三角点は、展望きかず 10 分程で山頂をあとにした。

ただ、アブラチャンというめずらしい木の群生が印象的であった。

3 日目、日本三英彦山の一つ、英彦山に登った。山は三峰からなっており、北岳、中岳、南岳とあって、南岳に一等三角点がある。一気に、きつい登りで汗をかき北岳へ登り、本峰ともいうべき社のある中岳から南岳へと歩き一等三角点へタッチした。

ここも、残念ながら展望がきかずに、一等の山であるのにという思いだけが残った。でも、なんやかんや理由づけして、二百名山でもあるし、両山とも一等三角点でもあったし、それなりに楽しんで山行が出来た。

家に帰って、カミさん曰く、もうボチボチ、亭主とつきあうのんやめまっさと。

【参加者】 大槻、大槻 F 1

【個人山行】

第 5 回夏山登山

「越百山～南駒ヶ岳～空木岳」

山岡昭弘、大塚孝之、西尾直樹

今年で夏山登山を企画して 5 年目となる。

1990 年の白馬岳～榎海新道～親不知に始って、南アルプスと北アルプスを交互にその山域に選定してきた。昨年は梅雨明けが取り消されるという山行には有難くない異常気象となり、畑薙大吊橋で聖岳、赤石岳を眼前にしながらか中止決定の已むを得なかった。いささか消化不良のまま年を越し、初夏を迎えるに至って、小規模ながらも楽しい山行をしようという気運となり今回の企画となった。初めての中央アルプスであるが、5 年前に個人山行をした経験から、道の良さや中央アルプス中部の落ち着いた雰囲気とによって“ゆとり”ある山行となるはずであった。

(西尾)

8 月 12 日

今年の夏山は N 氏、O 氏と私と 3 人で少し寂しい山行となった。

O 氏の車で私の家を午後 6 時前に出発、途中、N 氏を拾い、買い出しを済ませて、京都南 I C より名神へ入る。

伊吹 P A、恵那峡 S A で休憩をとり、中央道中津川 I C を出たのは午後 10 時過ぎであった。

R 19 を北へと走り、午後 11 時過ぎに伊奈川林道へと入る。伊奈川を右手に見ながら林道を上

流へと走り、伊奈川ダム上部駐車場に着いたのは、日付変更線を越える頃であった。

駐車場には先客が何台もあり、既に仮眠中であった。(釣り人?)

8月13日

空には満天の星と天の川。

流れ星が多く、今日からの山行の無事を祈りつつ床に就く……………。

午前4時、あたりがうす明るくなりかけたころ起床、午前5時過ぎに駐車場を出発する。登山届をポストに入れ、ケサ沢出合を右へ、ケサ沢林道を福栃沢出合まで歩き小休止、身仕度をもう一度整え、案内坂の前で3人の使用前(?)の記念撮影を行い、越百山へと向かった。

最初は急登で、クマザサの小径をジグザグに進んでいった。20分程快調に歩いた頃、思わぬアクシデント。突然、ハチの集団に襲われ、手足を数ヶ所刺されてしまった。(被害者は、列の後ろを歩いていた2人。なぜか先頭の1人は無事であった。) 応急手当の後、刺し傷の痛みをこらえながら、気をとりなおして歩き出す。

水場を通過、下のコルには午前7時に着き、クマザサで囲まれた小さな広場で朝食とした。

原生林とクマザサの小径を進み、上のコル、おこじょ平を通過し、御岳展望台へは午前8時30分頃着いた。正面には、雲がかかった御岳が見えていた。展望台から少し歩いたところにある上の水場で水を補給。水場の周りは、トリカブトの花が満開であった。

上の水場を過ぎると再び急登となり、原生林の中をジグザグに進んでいった。福栃山ピークの横で小休止をとり、少し下り、越百避難小屋には午前10時過ぎに着いた。越百山が正面にきれいに見えていたが、仙涯嶺、南駒ヶ岳には雲がかかっていた。

「ハチとササダニに注意するように」と小屋の主人の言葉。

登り返して、森林限界を過ぎ、ハイ松帯、越百山頂上へは午前11時に着いた。頂上は晴天。振り返ると、遠くに越百避難小屋の赤い屋根が小さく見えていた。記念撮影の後、出発する。ここまでは、いたって快調。ノ

ザレ場とハイ松のなかを仙涯嶺へと進んでいく。小さなピークをいくつか越えるうちに疲れがだんだんとたまってきた。ガスが濃くなり、小雨がパラつくなか、仙涯嶺を通過、最後の急登を登りきって南駒ヶ岳頂上に着いた時は、午後2時を過ぎていた。頂上には小さなホコラがあり、山行の無事を祈る。四方はガスで展望ゼロ。記念撮影の後に出発する。

ホコラの前を左方向へと進んだのが間違いの始まりであった。小さな「須原・伊奈川ダム」と書いた案内板を見落としてしまっていたのだった。大きな花崗岩が積み重なった歩きにくい尾根道を進み、間違いに気付いたのは20分程経ってからであった。

「どうも、北沢尾根への道に入ってしまったらしい」

午後3時過ぎに再び南駒ヶ岳頂上へと戻り、気を落ち着かせ、今度はホコラの前を右方向へと進む。岩に大きく矢印と「空木」の文字が書いてあった。岩場を急降下。疲労度は最高。40分程歩くと、やっと、摺鉢窪避難小屋分岐に着いた。

「ここから標高で約160m下に、今夜の宿泊場所があるのだ。もうひとがんばり。ノ」

疲れた足を引きずり、ガスの中を10分程急降下すると、お花畑のはるか向こうに赤い尾根の摺鉢窪避難小屋が見えた。お花畑の中をさらに下り、小屋に着いたのは午後4時過ぎであった。

先客は2人。小屋は大きく、比較的きれいで、しっかりしていた。

「いったい、何人くらい泊まれるのだろうか」

早速、荷物を置き、とりあえず、小屋の外でビールで乾杯をする。小雨が降ってきたので、急いで小屋の中に入り、夕食とする。夕食の後かたづけもそこそこに、みんな早くに床に就く。午後6時30分であった。

小屋の外は強い風。時折、雨の音も……………。

(山岡)

8月14日

平成6年8月14日 前日の疲れもアルコールと睡眠でとれすっきりとした気持ちで起床した。天気もよさそうだ。

さあ、今日もがんばろうと摺鉢窪避難小屋を出発した。まず、目指すは赤柳岳2,789m。少し風がきつく寒さを感じたが無難に山頂に到着する。山頂はすっきりと晴れていて、すばらしい眺望であった。3年前の夏に登った白峰三山や富士山等の姿がきれいに見え、日頃見られない山の景色をしばし味わった。小休止の後、今回目指す最後の山空木岳2,863.7mへ向かって出発、約1時間後に頂上に到着。記念撮影、朝食、少し休んだ後、木曾殿山荘へと向った。木曾殿山荘までは、岩場数箇所あるため慎重に進んだ。

木曾殿山荘で1回100円の有料トイレを使用し、みやげジュース等を買って、伊奈川林道へ向って下山した。下山途中、標高1,500m付近の川原で小休止をとるが、川の水が冷たくて気持ちよかった。

最後に伊奈川林道を約1時間45分歩き、出発点の駐車場へ無事到着した。

その夜は、木曾川沿いにある^{かげはし}棧温泉にて疲れをいやしゆっくりとくつろいだ。(大塚)

今回の山行を振り返ってみると、あるグループが5回の山を数えたことの意味をいろいろ考えさせられた。

第1に南駒ヶ岳山頂でのルート誤りについてである。晴れていれば何の問題もなく通過したはずであるが、ガスがでていたから誤るといったような難所でもない。単なる怠慢であり弛緩である。これは私個人の問題が大きかったが、小雨まじりの天候での午後3時というのは余りにも悪すぎる。ルートを確認して引き返す道すがら、何がこうさせたのだろうかと考えていた。

第2に今回の山行が予想違って大変な疲労をもたらしたことである。ゆとりあるはずが疲労困憊し、摺鉢窪避難小屋では食事の片付けもそこそこに眠りに落ちた。5年前の山行時と比較して条件の違いがあるというものの、感覚の余りの格差に想いがふっきれなかった。前回の楽しさと感動が今回の現実とどうもしっくりこないのである。

2つの事例の底流れには、山への思いの変化というか、良くない慣れ(悪慣れ)のようなものが感じられる。山の楽しかったことのみと山行計画・行動が直結し、山への地道さ、緊張、謙虚

さといったものを忘れがちになっていないだろうか。要所でのルート確認、事前のトレーニングは常識なのだろう。反省しきりである。

こう考えてくるとストイックで重い気もするが、実際の山行には素晴らしい体験がある。山の中、樹林の中、岩肌、風、雨、ガス、お花、それらがもつ全体の気、雰囲気の微妙なうつろいが心に染みいってくる。緊張とリラックスとが心地よい。気をとり直して来年こそは納得いく山行をしたいと思う。出来ることなら、単なる縦走から少しづつでもバリエーションを加えていきたいものである。

(西尾)

<コースタイム>

8月12日	19:05	京都南IC	22:10	中津川IC
13日	0:00	伊奈川ダム駐車場		
	5:20	出発	6:00	福栃沢出合
			7:00	下のコル
	8:45	上の水場	10:04	越百避難小屋
	11:03	越百山	12:36	仙涯嶺
			14:10	南駒ヶ岳
	16:03	摺鉢窪避難小屋		
14日	5:40	出発	6:30	赤檜岳
			7:40	空木岳
	9:15	木曾殿山荘	10:56	仙人の泉
			12:57	伊奈川林道
	13:38	伊奈川避難小屋	14:55	駐車場着

例会報告

例会No	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
2008	紀州の山	8月22日 ～24日	晴れ	大倉寛治郎	森本, 津田, 他3名	(別稿詳報)
2009	無雪期遭難救助 訓練 金毘羅山	9月4日	晴れ	大倉寛治郎	吉田 武 大倉寛治郎 方山 宗子 山岡 昭弘 西尾 直樹 馬淵 拓巳	(別稿詳報)
2010	無雪期指導員研 修会および検定 会 鈴鹿藤内壁	9月10日 ～11日	晴れ	山岡 昭弘	大倉寛治郎 方山 宗子 山岡 昭弘 西尾 直樹	(次号報告)

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
北海道の山旅	7月15日 ～24日		服部 正義	(別稿詳報)
九州の馬見山 と英彦山	8月6日 ～7日		大槻 雅弘	(別稿詳報)
中央アルプス 越百山 南駒ヶ岳 空木岳	8月12日 ～15日		山岡 昭弘 西尾 直樹 大塚 孝之	(別稿詳報)
三ノ峰(白山)	8月19日	雨	馬淵 拓巳 他1名	ついに念願の三ノ峰に登ることができた。 上小池キャンプ場から打波川沿いに歩く。 そして稜線上にある「6本ヒノ木」までを直登し、あとは稜線歩き。天候が良ければ北アルプス連峰が望めたのだが残念。でも、久しぶりに原生林の中を歩けたので楽しかった。

愛宕山	8月27日	晴	山元 誠一	2週間続けてサイクリング+ジョギング山行を行い、心地よい汗を流してきた。 (コースタイム) 登り1時間5分 — 下り50分
瓢箪崩山Ⅲ△ (532 m)	9月3日	晴	山元 誠一	(コースタイム) 登り25分 — 下り20分 瓢箪崩山へは、岩倉長谷上の飛驒ノ池に自転車を置き、山頂まで駆け足で登った。
Hawaii diamond head (△232 m)	8月28日	晴	井戸澄夫 F 2	Waikiki Beach から約1時間で山頂に立つ。眺めは絶景。 “南海の極楽島のそよ風を受けて優しき diamond head” 澄夫
鈴鹿 藤内壁	8月31日	曇り	吉田 武 大倉寛治郎 岡本 義弘 方山 宗子 馬淵 拓巳 松田 誠二 山岡 昭弘 他2名	9月に予定されている遭難救助訓練・指導員研修会および検定会に備えて、基礎技術の復習とウォーミングアップとを兼ねて、前尾根の検定コースを中心に岩登りの練習を行いました。ウィークデーということもあり、前尾根は私たちのみで貸し切り状態で、ゆっくりと練習できました。
高妻山 2等△2,353m	8月12日	晴	坂井他5名	
笠ヶ岳 2等 2,076m	8月13日	〃	坂井	
白砂山 2等 2,139m	8月14日	〃	〃	
浅間隠山 3等 1,737m	8月15日	〃	〃	
八風山 1等 1,315m	8月16日	〃	〃	
荒船山 2等 1,422m	8月16日	〃	〃	
雲谷山 2等 787m	8月21日	晴後雨	TAC例会	
杉尾山会	8月24日	晴	坂井他2名	
点名三谷 2等 569m	8月26日	〃	坂井他1名	

大迫 2等 574m	8月26日	晴	坂井他1名	
妙見山 2等 693m	8月30日	〃	〃	
養老山 2等 565m	9月2日	〃	坂井他2名	
筆頭帽子	9月7日	〃	坂井他1名	
妙見山 独標 1,139m	9月8日	〃	〃	
大峯山 2等 870m		〃	〃	
頭巾山 2等 870m	9月10日	〃	坂井他2名	

雑 報

△△△ 9月の集会

日 時 9月12日(月) PM6:30～
 場 所 厚生会館 4F 大教室
 出席者 (本局) 和田, 方山, 井上, 岡田, 三橋, 井戸
 (OB) 横井, 坂井 以上8名
 内 容 例会報告ほか

△△△ 8月の企画運営委員会

日 時 8月22日(月) PM6:30～
 場 所 厚生会館 4F 大教室
 出席者 岡田, 鷺見, 三橋, 吉田, 和田, 馬淵
 内 容 岳連報告, 例会, その他

△△△ 他山岳会の会報(受贈分)

9月分 趣味の登山, 京都山岳, 木雞, 一等三角点, 北山, 山友, 比良山岳, 青嶺

◎ 山岳部 45 周年記念登山予告

月 日	11 月 19 日 (土) ~ 20 日 (日)
集 合	19 日 (土) 7 : 00 京都駅八条口バスプール
コ ー ス	19 日 大台ヶ原散策~和佐又山~和佐又スキー場幕営 20 日 八幡平~明神滝~隠平 (南朝遺跡) ~薫峰
宿 泊	和佐又スキー場 (幕営主体) ヒュッテ宿泊も可 上北山温泉入浴可
申込締切	10 月末
装 備	日帰り山行程度
地 図	大台ヶ原, 大和柏木, 大豆生 (1/2.5 万)
交 通	マイクロバス予定
担 当	鷲見, 吉田, 井戸

8 月の末に実施予定であった北海道の山 45 周年記念登山は, 残念にも諸般の事情で中止となりましたが, 代替えとして 1 泊程度で誰でも参加ができ, かつ記念登山として, 京交にふさわしい山として台高山脈の山旅を計画しました。

かつては台高山脈は京交の山とまで言われていましたが, 最近では当部からこの山域に入る計画も少なくなっています, 久しぶりに台高の息吹きに触れ, 諸先輩氏の足跡を偲びたいと思います。山々の紅葉も真っ盛りで静かな山行きが楽しめることでしょう。

宿泊は和佐又スキー場での幕営を主としますが, 和佐又ヒュッテでの宿泊も可能ですので, 希望の人は申し出てください。

◎ 45 周年を記念して部報の特集号の発行を予定しています。

テーマ 「私の山」 字数 1200 字程度まで (部報約 1 頁)
原稿締め切り 平成 7 年 1 月末, 部報係まで

内容は問いません。楽しかった山行きの思い出, 自分の山への思い。登山について考えること等, 部員諸氏の投稿をお待ちします。詳細は企画委員まで問い合わせ下さい。

◎ 45 周年記念野外集会

12 月 17 日 (土) ~ 18 日 (日) 詳細は部報 12 月号。
納山祭と兼ねて保津峡落合で豪華パーティを行います。御期待下さい。
担当 鷲見 (CL), 大倉, 大槻

◎ 山岳連盟一斉清掃登山(天王山)

恒例の連盟行事として今年も京交は天王山一帯を清掃登山を行います。多数皆様のご協力をお願いします。

月 日 平成6年11月6日

時 間 午前9時

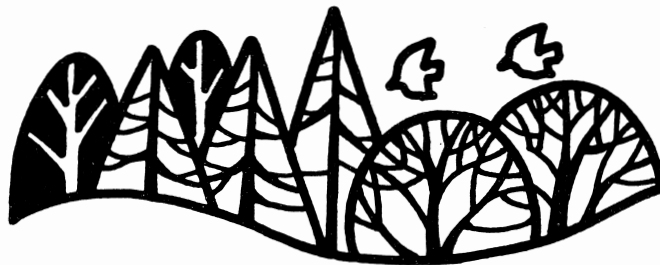
集合場所 阪急大山崎駅前

小雨決行

手袋, ゴミ袋, etcは連盟で用意します。

なお, 今回は連盟のみで実施します。

担当 奥村弘信 (075-791-7450)



帆 布・濾 布
テント・シート
雨 合 羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前

TEL 801-5331 (代)

西大路営業所

下京区西大路七条下ル

TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集會!!

●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カメラをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>

京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)

☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Outdoor sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアウェア・US産出品
ポータスカウト用品

Mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(256)-0548
営業時間 AM10:00 - PM8:00 毎週火曜定休
（株）スポーツ コニシ

「どしゃぶり状態」といわれる今年の女子大生就職戦線を報じる日刊紙にある女子大生が「……中小企業でもやりたい仕事が見つければ入りたい」とのたまっていた。ふざけるな!! なにが中小企業でもだ。そんな学生に限って漢字の書き取りテストで「口吻」をセツブン、「瓦斯」をカワラケ、「悪罵」をアクメと書いて試験官が腰を抜かすのだ。

そんなデモ・シカ女子大生はこちとらから願い下げだ。

制作 (株) 北斗プリント社
〇七五―七九一―六二二五

鮮の齒軋……………⑧

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

小林地図専門店

株式会社 **小林地図専門店**

〒600 京都市下京区^{あけず}不明門通六条下る西側
(烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598 代

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442

平成6年10月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部